

# IMD x PIVOT Strategy Boot Camp 2025

## インサイトレポート

2025年4月25日  
DBIC ディレクター  
渋谷 健

### ● トランスフォーメーションに向けて不可欠な マインドセット、多文化コミュニケーション、そして学習の力

不確実性が増し、イノベーションが加速し、グローバルな複雑性が高まる時代において、私たちは常に「自分の考え方」「他者とのつながり方」「行動のしかた」を見直すことが求められています。日本で開催された今回の IMD セッションは、その基盤を内面から再考する絶好の機会となりました。本レポートでは、DBIC ディレクターとして、今日のダイナミックかつ変化し続ける世界で個人や組織が成功を収めるための重要なインサイトと戦略的視点を共有します。

#### 【プログラム概要】

- タイトル：IMD x PIVOT Strategy Boot Camp 2025
- 日付：2025年4月25日
- 会場：東京ミッドタウン・カンファレンス 4F
- 講演者：IMD ゴータム・チャラガラ教授／ニッコロ・ピサーニ教授

---

## 🌱 1. 主要なインサイト

### マインドセットの再定義

マインドセットは不変でも神秘的なものでもなく、自分の内面から変化に対応し、適応し、行動するための動的かつ実践的な能力です。世界の捉え方、複雑性への対処の仕方、そして行動の基盤となるこのマインドセットを育むことこそがトランスフォーメーションの土台となります。

### 多文化コミュニケーション

英語はグローバルな知識やネットワークにアクセスするうえで依然として重要なツールですが、真のコラボレーションにはそれ以上の要素が必要です。文化的な違いを理解し、多様な価値観やコミュニケーションスタイルを尊重し、境界を越えて共感と信頼を育む力こそが、多文化環境で未来を共創する鍵となります。

## デジタルの価値を理解する

デジタル技術は単なる道具ではなく、かつては不可能だった形で経験や洞察、知識を交換できる「レバレッジポイント（起点）」です。データから知恵に至るまで、デジタルプラットフォームは分野や地域、世代を越えて新たなかたちの交流や価値創造、成長を可能にします。

---

## 2. 戦略的基盤

### 「現状の成果」と「変革」を両立する

目の前の業務で成果を上げつつ、未来の再発明に備えなければなりません。短期的なパフォーマンスと長期的なトランスフォーメーションの両立——すなわち現在のSカーブを管理しながら、次のSカーブへの飛躍を視野に入れることが重要です。

### イノベーション・エコシステムを構築する

コラボレーションこそが新たな競争力の源泉です。大企業のスケールとスタートアップや地域のパートナーが持つスピードと創造性を結びつけることで、継続的に学習・適応・イノベーションを生み出すエコシステムを形成できます。

### 共通の言語とビジョンを創る

共通理解がなければ、優れた戦略であっても失敗します。部門や文化、階層を越えて共通言語と物語（ナラティブ）を育むことで、人々のエネルギーを方向づけ、不要な対立を回避できます。

### ビジネスを“iPhone”のように設計する

単なる製品をつくるのではなく、プラットフォームを生み出すことを目指すことが日必要です。ユーザー体験、エコシステム統合、進化を意識した設計を行い、ビジネスが直感的かつ柔軟で、社会とユーザーに持続的な価値を提供できるようにします。

---

## 3. 現在の環境

### グローバル化は揺れ動きながらも続く

不確実性が高まる一方で、世界経済の相互依存は一層深まっています。地政学的・社会的ダイナミクスの変化に対して回復力と適応力を備えることが、混乱の中を乗り越えるカギとなります。

### 地域の“ベースキャンプ”を設置する

グローバル展開を進めるうえで、地域に根を下ろすことは不可欠です。地域拠点は文化的な基盤を確保し、現地での存在感を生み出し、持続可能な形で国境を越えた事業拡大をサポートします。

### コア能力を活かし、新たな分野を探究する

自分たちの強みを捨てるのではなく、新たなコンテキストに応用する視点が必要です。これにより隣接する産業や未知の機会への扉が開かれます。

### デジタルをレバレッジポイントとして活用する

デジタルプラットフォームを活用すれば、信頼や創造性、人間の英知をスケールさせることが可能になります。透明性、スピード、正確性を高めながら、より深いコラボレーションと包摂性を実現します。

### 人間中心主義が鍵

テクノロジーは人間の価値観を置き換えることはできません。あらゆる変革において、信頼や共感、人間同士のつながりを優先することが、長続きする意義ある変化をもたらす唯一の道です。

---

## ✿ 4. 学習と行動

### 境界を越えたコラボレーションを促進する

最も強力なイノベーションは異なる世界が交錯したときに生まれます。業界や規模、視点の異なる組織同士が交わる場をつくり、DAO（分散型自律組織）のように、それぞれのノードが固有の価値を提供できる仕組みを育むことが大切です。

### アダプタビリティを高めるマインドセットを再設計する

固定的なマインドセットから成長志向のマインドセットへ移行する必要があります。これは、不安や困難を受け入れ、実験を奨励し、個人が肩書きや境界を越えて成長できる環境を整えることを意味します。

### 学習は人をつなぐ架け橋

学習は知識を得るだけの行為ではなく、共通の視点や言語、共感を育む社会的プロセ

スです。役職や階層、文化の違いを越えて共に学ぶことで信頼関係が築かれ、深いコラボレーションの可能性が高まります。

### 信頼に基づく関係を構築する

トランスフォーメーションは一人では達成できません。相互尊重と共通の目的を基盤とする強固で真摯な関係が、集団的な行動と長期的なイノベーションを牽引する社会資本となります。

---

### 5. マインドセットを再考する：

トランスフォーメーションを実践するには、マインドと、マインドセットによる方向づけについて理解する必要があります。

マインドとは感情や思考だけでなく、知覚や記憶、意図を処理する“構造”であり“神経化学的なシステム”でもあります。文脈や物語、シグナルに対してリアルタイムに反応し、常に変化し続けています。

このシステムに対してコンパスのような役割を果たすのがマインドセットです。世界の見方、人との関係性、思考や行動のあり方に方向性を与えます。マインドセットは抽象的な概念ではなく、きわめて実践的な力なのです。

成長志向のマインドセットを自覚的に育むことで、私たちは以下を実現できます。

- 他者とより深くつながり、包括的かつ信頼に基づく関係を築く
- 思考の幅と深さを増し、システム全体を見通した洞察を得る
- 明確さ・現実性・正確さをもって行動し、スピードと効果を高める
- 不確実性やリスクの高い環境でも創造性やレジリエンス、モチベーションを発揮する

マインドとマインドセットの理解を確認することで、私たちは自己認識を深めると同時に、自分自身だけでなく組織や社会全体を変革するための能力を育んでいくことが可能になります。

### 6. 結論

### **成長志向のマインドセットがスタートライン**

トランスフォーメーションへの扉を開く一歩目は成長志向です。しかし、その先へ進むためには、常に自分を問い直し、適応し、進化する必要があります。

### **学習は社会的な戦略**

共に学ぶことで共通の言語を獲得し、境界が解きほぐされ、共感が育まれます。これにより、組織やチームは一体となって前進することができるのです。

### **ケイパビリティを拡張し続ける**

現代の複雑さに対応するためには、生涯学習への投資が欠かせません。それは個人レベルだけでなく、組織やエコシステム全体にも言えることです。

### **デジタル + ヒューマン = 未来への準備**

AIのようなデジタルツールは加速装置となりますが、それだけでは十分ではありません。知恵や倫理観、人間中心のアプローチと組み合わせることで初めて真の意味を持ちます。テクノロジーと信頼、スピードと共感、戦略と精神性を融合できる人々や組織こそで、未来をリードしていくことが可能になります。

---